

☆待降節第1主日(11月27日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

### 第一朗読 (イザヤの預言 2章 1-5節)

アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて幻に見たこと。  
終わりの日に主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ちどの峰よりも高くそびえる。  
国々はこぞって大河のようにそこに向かい多くの民が来て言う。  
「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。  
主はわたしたちに道を示される。  
わたしたちはその道を歩もう」と。  
主の教えはシオンから御言葉はエルサレムから出る。  
主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。  
彼らは剣を打ち直して鋤とし槍を打ち直して鎌とする。  
国は国に向かって剣を上げずもはや戦うことを学ばない。  
ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。

### 第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 13章 11-14節)

皆さん、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、主イエス・キリストを身にまといなさい。

### 福音朗読 (マタイ 24章 37-44節)

イエスは弟子たちに言われた。「人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人

残らずさらうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。

だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

### 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

銀杏の木もその葉を黄色に染め、木枯らしに散っています。いよいよ待降節を迎えました。待降節は主の降誕を準備する季節ですが、今年はこの時期からミサが「新しい式次第」によって、執り行われることになりました。今までの式次第に慣れてきた私たちにとって少々慣れないところがあると思いますが、ミサの中で使われる言葉が私たちにより深く理解できるように努力しましょう。また待降節の間には司祭の祭服の色が紫色になります。この色は私たちの心に回心の恵みを求めるように誘います。ふさわしい心で主の降誕を祝えるようにするためです。では、ふさわしい心で祝えるようにするためにはどのようにするのがふさわしいのでしょうか。父なる神様は人間の世界にご自分の最も愛する御子を私たちに下さいました。そのように私たちも、自分にとって最も大切な何かを捧げる心、その実践が必要なのではないでしょうか。今私たちの周りには気づこうとすれば助けを必要としている人たちがいます。遠くの国に、地域に目を向けるまでもないことなのです。皆さん、この待降節の間に一人の助けを必要としている人に手を差し伸べてください。ベツレヘムの宿屋の人たちも幼子イエスさまのために貧しい馬小屋を提供したのです。

## 第一朗読（イザヤの預言 2章 1-5節）

聖書には終末の主の日について二つの表現があります。一つは大きな災難や暗闇、破壊などの恐ろしいさま。もう一つは今日読まれたイザヤ書のように主の神殿のあるエルサレムの平和な状況です。主の日は災難や破壊、暗闇で終わるのではなく、主の光の中を歩む世界です。暗いニュースに悩む私たちにイザヤは呼び掛けています。「主は私たちに道を示される。私たちはその道を歩もう」と。

## 第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 13章 11-14節）

初代教会の人々にとって、主の再臨の時は近いと思われていたようです。それほど熱烈に主イエスが来られることを求めていたのです。私たちは現在そのようには考えていませんが、主イエスを待ちわびる初代教会の人々の心を持つ必要があります。パウロは述べています。「眠りから覚めるとき」。「闇の行いを脱ぎ捨てるとき」。「光の武具を身に着けるとき」。「主イエスを身にまとう時」。主イエスを身にまとうとはどんなことでしょうか。演劇の俳優さんがその動作とともにセリフを言ってその人物になりきるように、私たちが主イエスの言葉と行いをもって語り、動くことではないでしょうか。主イエスの言葉を口に出してイエスのように働くことが肝心なのです。考えているだけでは足りません。

## 福音朗読（マタイ 24章 37-44節）

今日の福音では「目を覚ましていなさい」、「用意していなさい」と私たちにイエスは呼び掛けておられます。ボーイスカウト運動の合言葉に「備えよ常に」という言葉があります。あらゆる事態に適切に対応できるためには日ごろからの備え、訓練が必要だということでしょう。日本の国は火山がたくさんあり、地域的にも地震の多い国と言われています。つまりどんな自然災害があってもおかしくない国なのです。そのために「巨大地震に



備えよ」「首都直下地震に備えよ」ということで、防災訓練が頻繁に行われています。隣のサレジオ幼稚園でも先週の木曜日に防災避難訓練を行いました。ダンゴムシになり、防災頭巾をかぶり、園庭に集合避難する訓練です。これは身に迫った災害から身を守るためですが、イエスも私たちに勧めています。「あなたの魂を守り、救いなさい」と。魂を救う訓練、それは「ゆるしの秘跡」です。12月11日には阿部神父様が来られて、ゆるしの秘跡が行われます。魂を守る訓練をしましょう。



待降節が始まった！

P.S.

ミサの新しい式次第のパンフレットは無料で配布されていますので、ミサの際にご活用ください。

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光